

一方、測定精度の向上と共に、理論的な解析が困難になり、理論的に fitting parameter を導入した複雑な半経験式に依存することになる。これらのことは環境の保全、省資源化のために、工業的にはますます高精度の熱物性値を要請されているにも拘らず、華やかさを持たない熱物性関連分野への若い研究者の参入を躊躇させている所以であろう。

ふっ素系アルコールまたはエーテル+水、代替フロン混合系などを研究対象にし、より安全な、より効率的なフロンまたはそれに代わる物質を検索することを目的とした報告が多かったのも今年の特徴であった。大きい電

気陰性度を持つふっ素原子を含んだ化合物およびそれらの溶液では分子内、分子間に特異な相互作用を持つことが推察される。熱物性の研究では混合系においても温度、濃度の他に、圧力を関数として導入することが必須となる。しかし、実験の煩雑さから、測定濃度が数点に留まり、詳細な濃度依存性、すなわち、溶液構造について議論できない場合が多い。このことから、今後とも度々合同学会が開催され、熱測定研究者の異なった視点からのご意見を拝聴できることを期待したい。

(京都工芸繊維大学工芸学部 高木利治)

新刊紹介

John O. Hill 編 "For Better Thermal Analysis and Calorimetry" (第3版) (ICTA, 1991) (A5判 vii+93頁)

Lombardi (ICTA副会長、当時) が編集し、1980年に発行された第2版が、11年ぶりに改訂された。まず、題名に Calorimetry が加えられた。わが国では熱測定学会発足当初から熱分析とカロリメトリーとの両分野にまたがる学会が組織されてきたが、これにならう動きがフランス初め欧州に広がり、数年前から国際熱分析連合 (ICTA) の活動もカロリメトリーを含めることとなっていた。このような動向が、このパンフレットにも反映されている。

内容は、第1部熱分析とカロリメトリーのデータ・ハンドブックと第2部ICTAとは何かの2部より成る。第1部は、熱分析とカロリメトリーの歴史、命名法、標準化、報告に関する勧告および文献の5章より成り、機器の製造販売社のリストとエネルギー関連単位表が附録として付け加えられている。第2部は、ICTAの歴史、ICTAの構造と運営、ICTA科学コミッション、ICTA出版物およびICTA会員の5章に、ICTAの規約、理事会、会長、所属学会、連絡者、受賞者、命名法委員会名簿および入会手続きが附録として記載されている。

このように、ICTAに関心がある人、熱分析はもちろんカロリメトリーを行っている人にとって机上に常置し、折りにふれて参照すべき内容がもり込まれている。ただ、命名法とその解説は、本文中にもあるように、理事会の承認を経たものではない。これまで5回にわたり命名法委員会からその検討結果が逐次理事会に報告、承認されてきた。これらは国際純正応用化学連合 (IUPAC) にも採択され、国際標準化機構 (ISO) により国際規格にも取り入れられてきた。わが国でもその基本的な考え方に従い、熱測定学会の命名法グループの審議を経て、命名法が確立され、JISにも取り入れられている。しかし、このパンフレットに記載されている命名法は、これまでの基本的な考え方やわく組みを大幅に変えるものであり、理事会で承認されていない試案として理解すべきものである。

(ダイセル化学工業(株) 小沢丈夫)

本パンフレットを実費(2,000円程度、送料込み)で配布いたします。

ご希望の方は氏名・連絡先住所・電話・希望冊数を学会事務局までFAXでお申し込み下さい。

FAX番号 03-3815-8939

配布予定 1992年3月頃

お申し込みの方にはパンフレットと請求書を送付いたします。